

# 積雪や凍結路面に係る救急事故に注意しよう

## 《積雪や凍結路面に係る救急事故の発生状況》

### 1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

毎年12月から3月までの期間に、積雪や凍結路面により滑って転倒した際に受傷する事故（以下「ころぶ事故」という。）などによる救急事故が発生しています。



令和3年12月から令和4年<sup>1)</sup>3月までの期間では、東京消防庁管内<sup>2)</sup>で623人が救急搬送されています。

また、過去5年間では、1,579人が救急搬送されています（図1）。

積雪の多かった平成30年1月及び令和4年1月では救急搬送人員が急増しており、降雪の有無によって救急搬送人員が大きく変化しています。

1) 令和4年の数値は暫定値

2) 東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

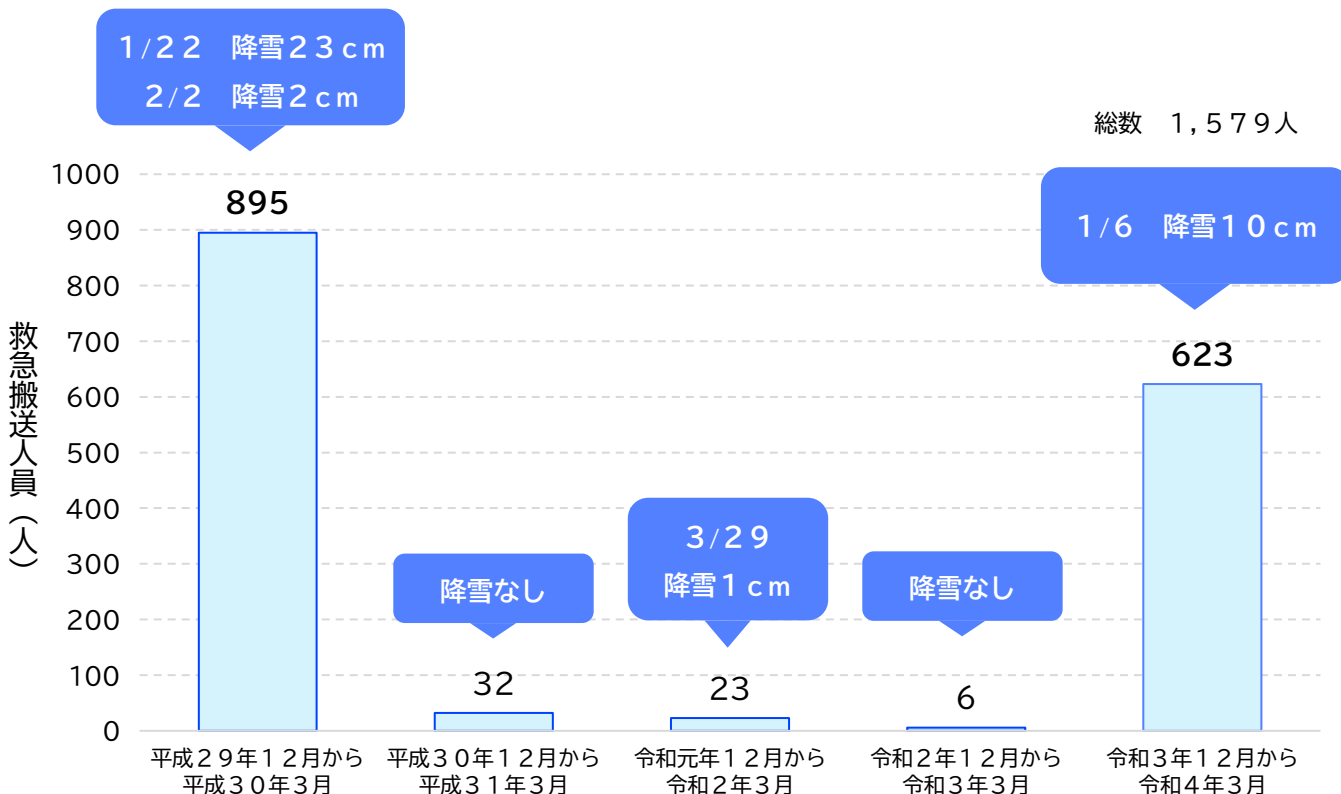


図1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

## 《事件事例及び予防策》



積雪や凍結路面によって事故が起きています

### 外で滑って

- ◆ 歩いて坂道を下っていたところ、地面が凍結しており、足を滑らせて転倒し、腰部を受傷した。

(30代 中等症)

### 通勤中に

- ◆ 通勤途上、歩道橋の上で凍結した路面に足を滑らせて転倒し、腰部を受傷した。

(70代 中等症)

### 雪かき中に

- ◆ 自宅の玄関前で夜間に雪かきをしていたところ、尻餅をつくように転倒し、歩けなくなった。

(50代 中等症)

## 事故を防ぐために

- 靴は滑りにくいものを選びましょう。
- 足元に十分気を配りゆっくりと歩きましょう。
- 降雪後の数日間は、事故が多いことから、特に注意を払いましょう。
- 天候を事前に情報収集し、残雪や凍結路面を避け、余裕を持って行動しましょう。

## 《搬送人員の変化》

### 2 月別の救急搬送人員

月別に見ると1月が1,456人、次いで2月が100人と多くなっており、搬送人員が過去5年間で多かったのは、平成30年1月の846人で、次いで令和4年1月の590人です。1月が多いですが、降雪の有無によりさらに差が出ています(表1)。

表1 月別の救急搬送人員(人)

	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年12月～ 平成30年3月	4人	846人	43人	2人	895人
平成30年12月～ 平成31年3月	0人	6人	26人	0人	32人
令和元年12月～ 令和2年3月	0人	9人	1人	13人	23人
令和2年12月～ 令和3年3月	1人	5人	0人	0人	6人
令和3年12月～ 令和4年3月	3人	590人	30人	0人	623人
合計	8人	1,456人	100人	15人	1,579人

### 3 気象状況と救急搬送人員の関係

救急搬送人員の多かった令和4年1月について、気象状況<sup>3)</sup>と救急搬送人員の関係をみると、6日に降雪があり、降雪後の数日間は路面凍結などの理由により「ころぼ事故」が発生するなど、1月だけで590人が救急搬送されています(図2)。

3) 気象庁の気象統計情報の東京で観測・測定した数値を使用

総数 590人

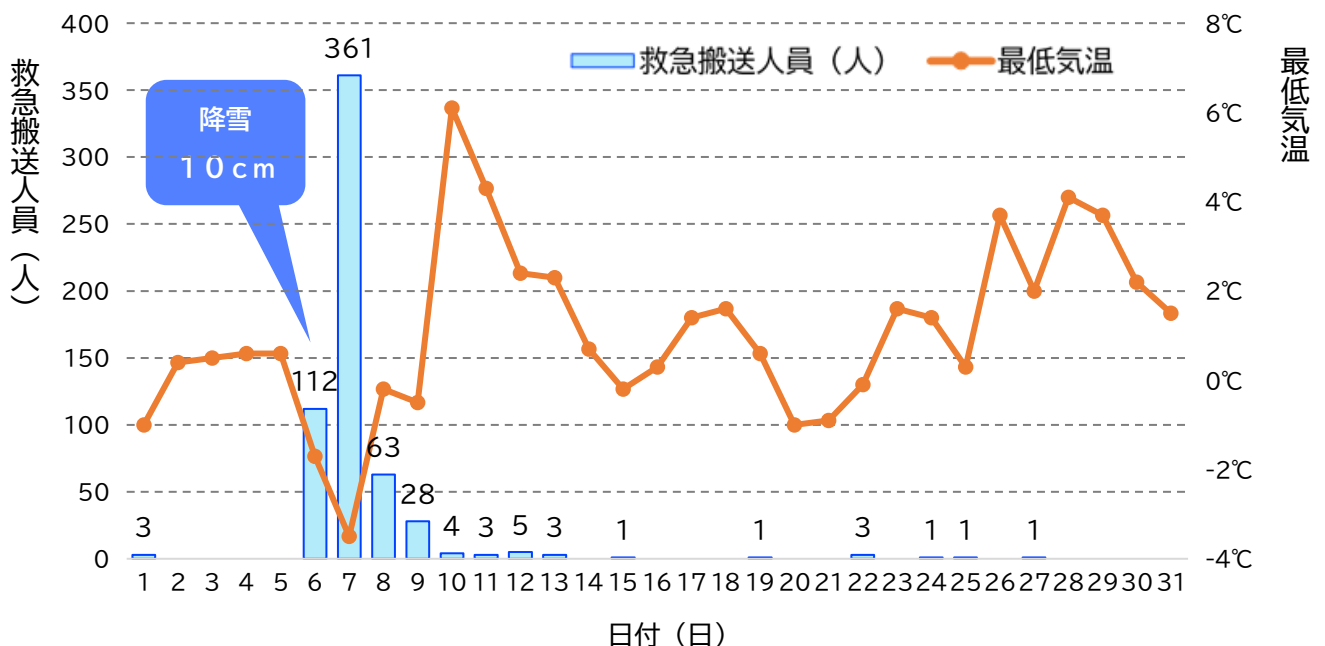


図2 気象状況と救急搬送人員(令和4年1月)

#### 4 年齢層別救急搬送人員

年齢層（5歳単位）別にみると、50歳から84歳までで多く救急搬送されています（図3）。

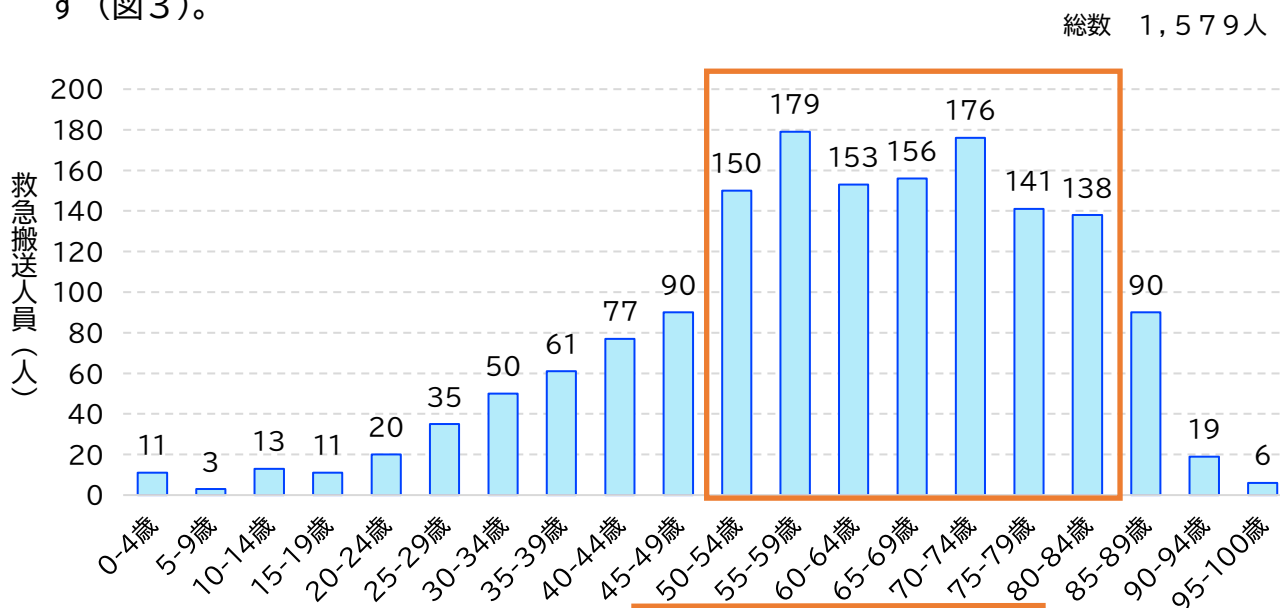


図3 年齢層別救急搬送人員（過去5年）

#### 5 初診時程度別救急搬送人員

初診時程度別にみると、約4割が中等症以上と診断されています（図4）。

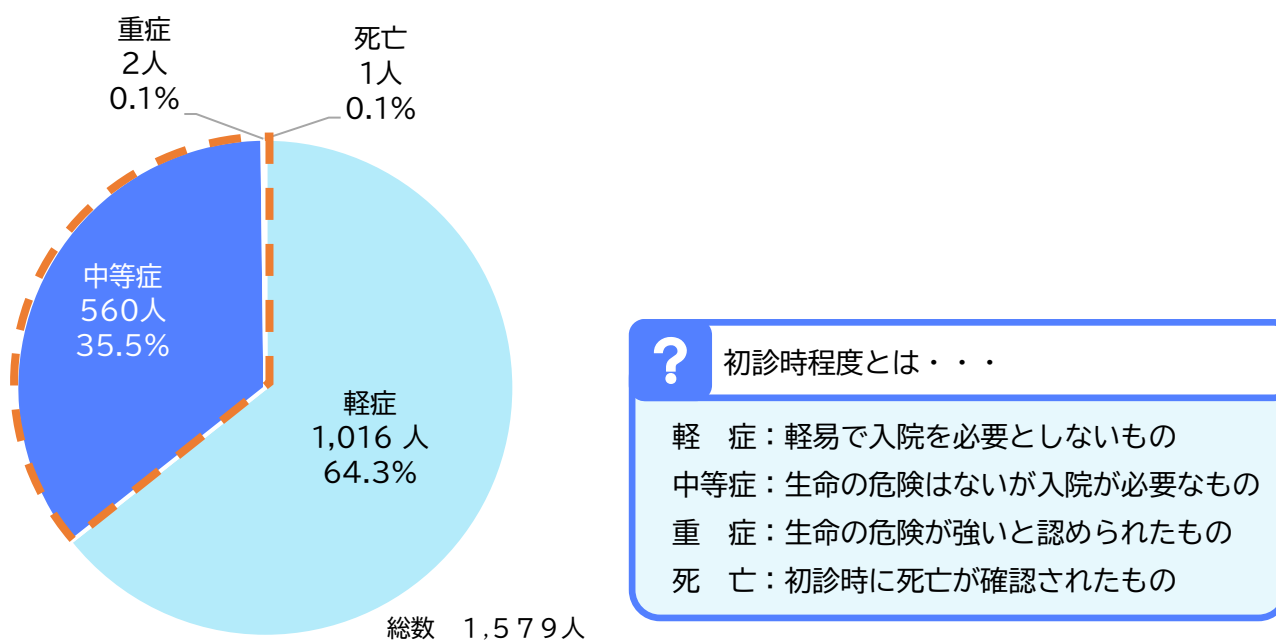


図4 初診時程度別救急搬送人員（過去5年）

## 6 時間帯別救急搬送人員

時間帯別の搬送人員を見ると、午前7時、午前8時の時間帯で多くなっています。急いで歩きがちな通勤・通学の時間帯は、あらかじめ時間に余裕を持って行動をすることが必要です（図5）。

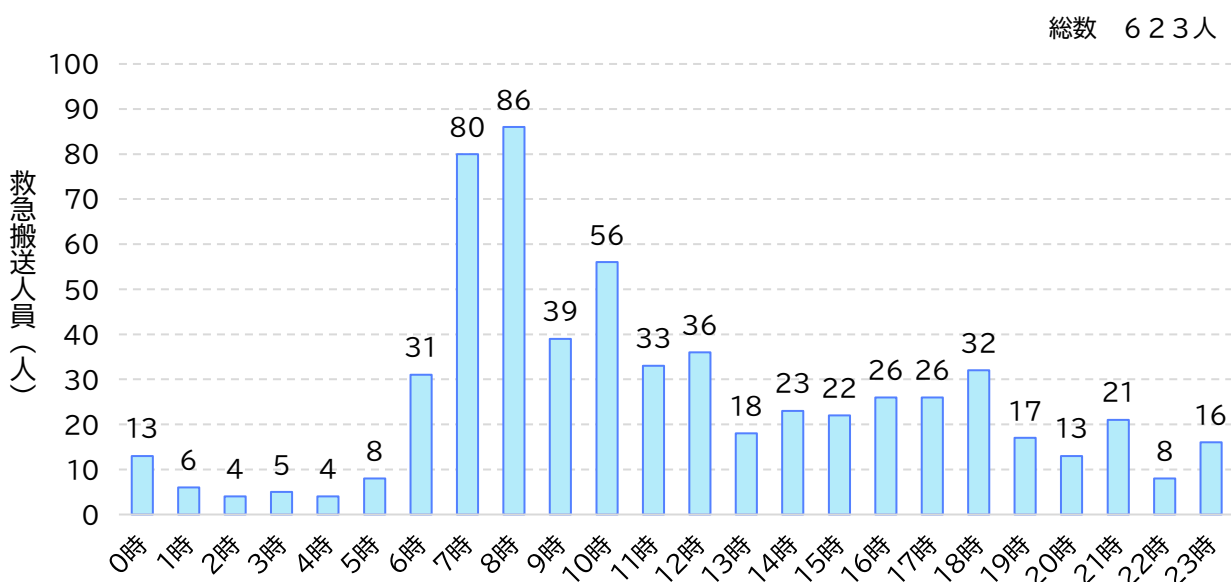


図5 時間帯別救急搬送人員（令和3年12月～令和4年3月）

《病院へ行く？ 救急車を呼ぶ？ 迷ったら… 「#7119」》

**病院？ 救急車？ 迷ったら…**  
 東京消防庁救急相談センター

**#7119**

☎ **電話で相談**  
東京消防庁救急相談センター

💻 **ネットでガイド**  
東京版救急受診ガイド

こちらからもつながります

**23区** 03-3212-2323

**多摩地区** 042-521-2323

東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局

救急標語 特別賞作品

知ろう 使おう #7119 （作者 古川 康平さん 府中市在勤）

# 1 「#7119」東京消防庁救急相談センター

急な病気やけがで「今すぐ病院に行ったほうがいいのかな?」、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、東京消防庁救急相談センターを開設しております。

相談医療チーム（医師、看護師、救急隊経験者等の職員）が、「症状に基づく緊急性の有無のアドバイス」や「受診の必要性に関するアドバイス」のほか「医療機関案内」に24時間・年中無休で対応しています。

**病院? 救急車? 迷ったら #7119**

電話で相談 #7119 電話  
ネットガイド #7119 検索

救急相談センター

自動音声ガイダンス

医療機関をお探しの方 1  
救急相談をご希望の方 2

24時間受付 救急相談センター

救急相談 救急相談看護師 救急相談医

緊急度がある 緊急度が低い 救急相談以外の相談

救急車による搬送 医療機関案内 福祉保健局等が開設する窓口を案内

119番通報を!

東京版 救急受診ガイド

インターネットで病気やけがの緊急度がチェックできます。

判断結果によって緊急度が分かります。

赤 救急車要請 今すぐ救急車で病院に行った方がよい

橙 今すぐに受診 [1時間以内]に病院に行った方がよい

黄 これから受診 [6~8時間以内]に病院に行った方がよい

緑 明日には受診 [24時間以内]に病院に行った方がよい

東京版 救急受診ガイド 冊子版

携帯電話はこちらから スマートフォンはこちらから

パソコンからは 東京消防 救急 https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/

# 2 ウェブや冊子でも緊急度の確認ができます(東京版救急受診ガイド)

「東京版救急受診ガイド」は、急な病気やけがをした際に、利用者自らが症状をチェックすることで、「今すぐ病院に行くべきか」、「救急車を呼ぶべきか」といった、病気やけがの緊急度、受診する時期や科目についてアドバイスが得られるサービスです。

症状のチェックは、59の症状から、該当する症状について、表示された質問から当てはまるものを選択する形のため、専門的な知識は必要ありません。いざというときに備えて、いつでも利用できるように、下記の二次元コードから登録し、ぜひご活用ください。

なお、東京版救急受診ガイドは、冊子版もご用意しております。東京都内の消防署(稲城市を除く)にて、配布しておりますので、お近くの消防署へご相談ください。



## 東京版救急受診ガイド（ウェブ版）の利用方法・サービス内容

### 《利用方法》

スマートフォン・携帯電話やパソコンから東京消防庁ホームページにアクセスして『東京版救急受診ガイド』をご利用ください。

アクセスには、二次元コードが便利です。



### 《サービス内容》

#### ✓ 3つのアドバイス

- 1 病気やけがの緊急度
- 2 受診する時期
- 3 受診する科目

ウェブ版・冊子版ともに、チェックした質問により病気やけがの緊急度などの3つのアドバイスを確認できます。



※リンクから受診可能な病院検索も利用できます。



赤	救急車を要請(今すぐ119番へ)
橙	今すぐに受診(1時間以内に病院へ)
黄	これから受診(6~8時間以内に病院へ)
緑	明日には受診(24時間以内に病院へ)

**※緊急性があると思われる場合は、ためらわず救急車(119番)をお呼びください。**